

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4721500821
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム まさき
所在地	長崎県北松浦郡江迎町猪調免1062-3 (電話) 0956-66-9388
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年11月19日

## 【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤14人(兼務1人) 非常勤 人, 常勤換算	14.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要 ( 4月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	5 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	潜竜徳田循環器科内科整形外科病院 福田歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの周りは民家と畑、川に囲まれた静かな環境で、ホーム内にも花壇、畑があり利用者は季節ごとの収穫を楽しむことができる。今年度より、地域におけるホームのあり方を全職員で話し合いをされ、くよく笑い、よく語ろう、まさきの和、地域の輪を大切に>という新しい理念を掲げていた。利用者は家族的な雰囲気の中で日々を過ごされ、地元の方も多く、地域の方とのなじみもあり地域全体で見守っている感じが取り入れられる。食事については栄養士の管理のもとで個人の好き嫌いを把握して対応している。健康面でも母体である病院で月1回の受診又24時間体制での対応を可能としている為、利用者の家族にも安心感がある。また家族との連携を大切に、利用者の暮らしぶり等の近況報告や、家族からの相談等も丁寧に親身になって対応しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である、理念の見直しについては職員全体で話し合い、わかりやすくなじみやすいものに改善されていた。その他の市町村との連携や家族への広報誌の頻度については職員と改善に向けての話し合いを重ねている現状である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員に評価表を配布し全員で取り組む事で、一人ひとりが日頃の振り返りをできることを実感しており、今回もそれをユニットごとの管理者がひとつにまとめたものになっていた。また、自己評価は一年間保管し、前年との比較もきちんと行われていた。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催されている。利用者、利用者の家族、地域の方、町役場の方が参加。家族会の意見やホームの状況、外部評価の結果など報告しており、議事録で確認できた。またその内容についても行事の案内板の件やAEDの利用方法、感染症対策について教えてほしい等、活発な意見がでており今後のサービス向上に活かされる話し合いがもたれている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回の行事後に家族会を開催し、家族だけでの話し合いの時間を設けている。その後、家族会で出た意見を要望として取り入れている。ご意見箱も設置しているが、これまでに利用された方はいない。また、日頃から面会時に家族に気軽に声かけを行い、家族の意見や相談事が出やすい雰囲気作りを職員が心掛けている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は地域の方がほとんどで、日頃から近隣との交流が深い。開設して5年になり、地域住民や子供達との交流も年間行事として積極的に行われている。江迎まゆ玉まつり、お花見、おくんちなどに利用者が参加している。また幼稚園のおゆうぎ会見学や中学生のワークショップに共に参加するなど地域の方との交流に努めている。逆に幼稚園から年2回踊りの披露に子供たちが来所し利用者の楽しみとなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念の見直しを職員全員で話し合い、「よく笑い、よく語ろう まさきの和、地域の輪を大切」と新たな理念に変更が成されていた。利用者と寄り添い、地域との関わりを重視した理念の内容になっていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“まさきの理念”を、目につくところに掲示し共有できるように心がけている。今回の新しい理念は職員全員で考えたものであり、理念の具体化についても職員ひとり一人が意識し「利用者にとっての普通の暮らし」という事を重視してサービスに繋げる取り組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設して5年になり、地域住民や地域の子供達との交流も年間行事として積極的に行われている。江迎まゆ玉まつり、お花見、おくんちなどに利用者が参加している。また幼稚園のおゆうぎ会見学や中学生のワークショップに共に参加するなど地域の方との交流に努めている。逆に幼稚園から年2回踊りの披露に子供たちが来所し利用者の楽しみとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員全員に配布し、職員個々に評価してもらいユニットごとに管理者がひとつにまとめている。職員ひとり一人に評価してもらう事で意識付けにも繋がっている。また評価結果についても全員で話し合い改善に取り組んでいる。個人評価したものを一年間保管し比較検討も成されている。		

グループホームまさき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催されている。利用者、利用者の家族、地域の方、町役場の方が参加。家族会の意見やホームの状況、外部評価の結果など報告しており、議事録で確認できた。またその内容についても行事の案内板の件やAEDの利用方法、感染症対策について教えてほしい等、今後のサービス向上に活かされる意見がでていた。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から運営推進会議に参加していただいているが提案はあまりない。ホームから他のホームとの交流をお願いして近日中に役場に集まり交流の話し合いを持つ予定である。又中学生の職場体験の場などにも利用してもらい地域との交流にもつなげていきたいと要望を出している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを月1回の来所を基本としている為、家族が毎月来所した際、近況報告や現状をその都度伝えている。また金銭報告や受診状況も伝え、記録簿には家族の確認が行われていた。現在のところ来所できない家族がない為、報告については口頭が主であり、機関誌も年2回程しか発行されていない現状である。	○	運営推進会議等、定期的に行われており、その中で家族会から出た意見や、運営推進会議の内容報告などの結果を、例えば機関誌等で、家族にフィードバックするような仕組み作りを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、行事後に家族会を開催し、家族だけでの話し合いの時間を設けている。その後、家族会で出た意見を要望として取り入れている。ご意見箱も設置しているが、これまでに利用された方はない。また、日頃から面会時に家族に気軽に声かけを行い、家族の意見や相談事が出やすい雰囲気作りを職員が心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の場合、利用者には知らせており、離職理由については離職者本人の意向の範囲で伝えている。ユニット間の職員異動については、A Bユニットが平屋作りの建物の為、常に交流があり職員全員が利用者の顔なじみになることで利用者や家族のダメージを抑えている。新しい職員については、利用者の性格、趣味、介護時の注意事項など知らせ除々になじんでいくようにしている。		

グループホームまさき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての案内はミーティング時実施している。母体病院で実施されている月1回の勉強会には参加できる人は参加しているが医療的な研修内容が主である。外部研修は参加できるがシフト上難しい面もある。研修参加後は全員に一度に報告はできにくく、個々人に伝え報告書を見てもらう結果になっている。	○	内部研修、外部研修などの参加については、個人のスキルアップの為に、計画性をもって実現される事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣3施設の交流について話し合う場をもてるように、市町村に要請し、近日中に実現する。他施設からのコンサート見学への呼びかけもあり、ケアマネージャー同士のつながりが大切だと感じている。今後も話し合いの場をもちながら交流を深めていこうとする積極的な姿勢が伺えた。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが地元の方で、見学にみえてから申し込みされる方が大半である。利用の前に日中ホームの雰囲気を覚えてもらったりしている。又家族と相談しながら馴染んで頂くように工夫している。管理者は、その中でも特に利用者にとって以前からの在所利用者との関係が大切だと考え、職員と話し合い利用者同士のトラブルを未然に防ぐ心づかいが成されていた。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方を教えてもらったり、洗濯物を片付けたり昔からの言い伝えを教わったりと共に支えあう関係である。また歌が好きな利用者が多くカラオケ等は職員、利用者が共に楽しむことができることのひとつである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、気持ちを察するように努めている。気持ちを表に出せない方もあるが、表情や日頃の様子から察したり、家族等から情報や生活歴など教えてもらい意向の把握につとめている。また、利用者の意向や把握については、個々の日誌や連絡帳等で職員全員が共有できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、職員で話し合い計画作成し、その立案を2～3ヶ月でカンファレンスを行い見直し変更追加などしている。本人の意向、家族の意向、職員と共有できるものを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本としては3ヶ月、6ヶ月と見直しをしているが、体調の変化などで見直しが必要となった場合期間に関係なく現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院された場合には毎日声かけ訪問し洗濯物などホーム側ができることの最大限の支援を行っている。また通院に関しても送迎支援ができています。病院との連携により、柔軟な対応ができる仕組みがあり、家族の安心感も大きい。		

グループホームまさき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設立母体の利用者が入所されるケースが殆どで、それ以外の場合でも、入居時の説明で、本人や家族がかかりつけ医を母体病院にすることを希望される。またこれまでのかかりつけ医を継続して利用されることも支援している。1ヶ月1回の定期受診や24時間対応の体制の病院があり医療連携がとれている。また歯科医師もホームにきてくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者に医療行為が必要となった場合は、母体病院との連携で対応していく事になる。終末ケア希望の家族もあり、職員で対応方針や体制について話し合いをもつ必要がある。	○	終末期の対応については、今後、避けられない事であり、ホーム自体での職員の対応も含め方針を話し合い、家族の確認もとりながら共有していく事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者に対してゆっくりと穏やかな話し方で、個人のペースに合わせた対応を心掛けていた。利用者の情報については、職員採用時に守秘義務について誓約書を交わしており、利用者に関する書類は事務所と各ユニットの特定の場所に置き、外部から見る事ができないようにしている。また、写真掲載なども同意書をもらいアルバム作成などしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを乱さないようにしている。自宅で好きな事をして過ごしている時間は邪魔にならないよう見守りをしている。昼食は揃って摂るが、朝の起床時間もまちまちであり、朝食をとる時間については個人にあわせて対応している。		

グループホームまさき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく会話をしながら食事をしてきた。献立作りは栄養士により行われているが、好き嫌いを把握し対応している。食事の後片付けもできる範囲で手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、14:00～入浴時間になっているが、他の日でも必要な時には対応している。入浴は一人ずつの入浴とし介助している。入浴を嫌がる方もいるが、声かけや誘導の仕方を個々に合わせて工夫している。また嫌がる背景を家族に聞くなど相談しながら対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、数字の計算、折り紙など工夫して対応したり、生活歴を活かし畑仕事など手伝ってもらったりして、利用者それぞれの力を活かすよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事参加の場合は病院の車を借りて車椅子でも出かけることができるようにしている。買物は職員に頼まれる事も多いが、外出希望があるときは対応している。家族からの希望で短歌の会に月1度通う方もいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は鍵をかけず、出入り時はチャイム音のみである。ホーム近くの自宅に昼間毎日帰る方もいるが、近所の方が見守りをしてくれる。利用者をご存知の方が近所に多く地域ぐるみで見守り協力得られている。		

グループホームまさき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防局との年2回避難訓練の実施を記録で確認できた。地域の方にも声をかけ夜間想定による訓練も実施している。地域の方の協力と、すぐ駆けつけられる範囲に居住している職員もいるが、避難経路面で不安がある。	○	避難訓練の実施、避難経路など決めてあるが、避難できやすいようなハード面での工夫、近所の協力体制の強化に期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により、栄養摂取、水分補給など支援している。又水分補給はポットを常設し何時でも利用できる。夜間は個人別にペットボトルに飲み物を用意し各部屋に配置。食事の残渣量、水分摂取量など記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は季節を感じる飾り、花などがあり、音や光の強さも適切である。浴室の脱衣室は寒くなれば暖かくしておく配慮をし、洗面台の手元に物を置けるようにする等、利用しやすい工夫もみられた。全体的に、家庭的で寛げるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家庭で使っていた家具などホームに持ち込んでもらい、自宅にいるような雰囲気作りにもなっている。また、利用者が制作した手芸品や、家族の写真等が飾られていて、それぞれの利用者が落ち着ける居室となっていた。		

※  は、重点項目。